

物件の名称	試験方法		判定基準		備考
倉口覆布 (化学繊維に限る)	1	<p>外観検査</p> <p>原反、防水布地について製造者、品名、型式等を確認する</p> <p>縫合部及び縁部の重ね幅、縫い方、糸列及び糸目の数等の加工方法を調べる。</p>	1	仕様書どおりであること。	
	2	<p>引張試験</p> <p>縫合部を長さの中央部にとった幅 30mm、長さ 350mm の試験片及び縫合部を含まない同一形状の試験片を経緯方向からそれぞれ 5 個採集し、つかみ間隔を 200mm とし毎分 200mm の速度で、引張り破断強さを測定する。</p>	2	<p>縫合部試験片の破断強度は、</p> <p>甲種：120Kg/3 cm</p> <p>乙種：100Kg/3 cm以上であること。</p>	
	3	<p>防水度試験</p> <p>目止め液を施した縫合部を中央とした試験片を 5 個採取し、塗布面を水面に設置した防水度試験器で毎分 10mH<sub>2</sub>O の加圧速度で水圧を加え、裏面 3 箇所を漏水を発生した時の水圧値を測定する。</p>	3	<p>甲種：0.15 kg/cm<sup>2</sup> 以上の水圧で</p> <p>乙種：0.10 kg/cm<sup>2</sup> 左記の現象が現れること。</p>	
	4	<p>反復曲折防水度試験</p> <p>3 の試験と同様の試験片を縫合部 1 箇所に 10 kg の重垂 (幅 15 cm) を搭載し、それを 10 回反復し、その箇所の防水度試験を 3 と同様な方法で行い、裏面 3 箇所を漏水を発生した時の水圧値を測定する。</p>	4	<p>甲種：0.09 kg/cm<sup>2</sup> 以上の水圧で</p> <p>乙種：0.06 kg/cm<sup>2</sup> 左記の現象が現れること。</p>	

	5	<p>温度試験</p> <p>(1) 耐寒試験 縫合部-30℃(湿度成り行き)の恒温槽内に1時間放置した後取出し、直ちに折り重ねてひび割れの有無を調べる。</p> <p>(2) 耐熱試験 縫合部を66℃(相対湿度90±1%)の恒温槽内に1時間放置した後取出し、直ちに折り重ねて粘着の有無を調べる。</p>	5	粘着及びひび割れのないこと。	
	6	<p>糸の引張り試験(材料試験)</p> <p>つかみ間隔を250mmとし、毎分300mmの速度で引張り破断強さを測定する。</p>	6	破断強さが10kg以上であること。	
	7	<p>環境試験</p> <p>縫合部について2項の試験と同形、同数の試験片を採取し、高温多湿試験、温度繰返し試験及びウェザーリング試験を行い、さらに塩酸(5%)、硫酸(20%)、苛性ソーダ(30%)の薬液にそれぞれ30分間浸漬したのち、引張り試験を行う。</p>	7	<p>破断強さは、</p> <p>甲種：100kg/3cm}</p> <p>乙種：80kg/3cm} を標準とする。</p>	